

佳^よき日の箸置き



「おめでとう」や「ありがとう」の
思いを包んでおもてなし

和紙で物をつつむ作法
「折形（おりがた）」。

武家社会の礼法の一つ
で、六百年以上前から
伝承されてきた日本の
文化です。

進物を包むことや、儀
礼・儀式に使う飾りに
用いられてきました。

一枚の和紙を幾本もの
直線で折り返して現わ
されるその形。包む物
によって折り方が異な
り、様々な形が伝承さ
れています。

水引を結う手前、折ら
れたままの姿の凛とし
た美しさ。

その姿を、伝統工芸高
岡銅器の鑄造技術によ
り、箸置きとして表現
しました。



折形の歴史

折形は將軍家中心に秘伝として門外不出で伝承されてきました。

古文書によれば、原型は鎌倉時代に誕生し京都室町時代の三代將軍足利義満が高家に命じて武家独自の礼法を制定し、大名・旗本などに限って指導しました。

外の礼法（弓馬礼法）は小笠原家が、中（うち）の礼法（殿中の礼法）は伊勢家が任され、礼法を指南しました。

それらの礼法の中に和紙で贈り物を包む「折形」がありました。社会の頂点にあった天皇家中心の公家社会でも和紙を使った折形がありました。

公家は主に絹の布（布帛）で包み、絹の紐で結ぶやり方が中心でしたが、それに対して武力を誇った武家は主に強靱で白い和紙を使って包み、和紙を縫った紙縫り（または水引）で結ぶ独自の文化を考案しました。

多彩な自然界の色を使った絹の文化が公家、それに対して自然界の生なりの分厚い楮の繊維で作られた和紙を使ったのが武家の和紙文化です。

時代が平和になり江戸や大阪中心に商人文化が栄えると、武家は仕事を失い同時に門外不出であった折形礼法も寺子屋などで教えられて一般に普及して行きました。多くの礼法の流派も派生していきましました。

全国の農家が副業で和紙を漉くようになると和紙も一般に普及し、特に折形の粉包みなどの造形のおもしろさから、単に形を折って楽しむ「遊戯折形」おりがみ遊びが急速に普及しました。物を包む礼法から形を作って楽しむ「工芸、遊び」として発展します。器用な日本人ならではの応用発展です。

明治以降、義務教育では作法の一環として必ず折形を学びました。大正生まれの世代の方が最後の習得者です。

—— 山根折形礼法教室ホームページより抜粋



折形の名称と意味



弓弦（ゆみづる）
弓に張る弦の包み方。弓は邪氣払いの縁起物とされています。



木の花（きののはな）
天に向かって伸びる梅や桜、松といった樹木の包み方で、代表的な折形です。受け取った側は贈り主のことを想いながらその木花を活けます。

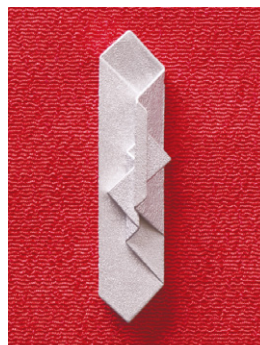


末広（すえひろ）
末広がりの形から縁起が良いといわれる「扇子」を贈る際の包み方。



水引（みずひき）
人と人との結びつきや、魔除けの意味を持つ「水引」の包み方。

佳き日の箸置き 材質：純錫



水引

サイズ：横 13 縦 52 高 8 mm
重 さ：20g

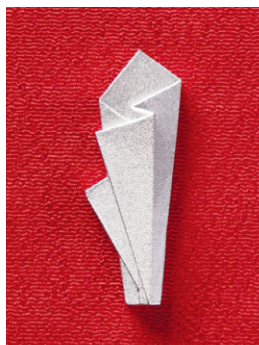
2 客入 ¥ 3,300 (税込)



末広

サイズ：横 18 縦 45 高 8 mm
重 さ：20g

2 客入 ¥ 3,300 (税込)



木の花

サイズ：横 17 縦 45 高 8 mm
重 さ：20g

2 客入 ¥ 3,300 (税込)



弓弦

サイズ：横 16 縦 52 高 8 mm
重 さ：20g

2 客入 ¥ 3,300 (税込)



4 種セット

¥ 6,050 (税込)

